

(様式1)

個別施策評価調書

主管部	教育局	
関係部	-	-
	-	-

基本施策	I-3 スポーツと文化・芸術を振興する
個別施策	③ 文化財保護の推進
個別施策の方向	先人から受け継いできた、つくば市の多種多様な歴史・文化遺跡をこれからも後世に伝えるため、市民がこれらに触れられる場の拡充に取り組む。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)											
H27年度	決算	事業費	356,366	人件費	21,747	事業コスト	378,113				
	事業費内訳	国庫支出金	218,380	県支出金	0	地方債	63,800	その他特財	169	一般財源	74,017
H28年度	決算	事業費	254,044	人件費	22,304	事業コスト	276,348				
	事業費内訳	国庫支出金	187,205	県支出金	0	地方債	29,200	その他特財	8,398	一般財源	29,241
H29年度	決算	事業費	224,387	人件費	16,322	事業コスト	240,709				
	事業費内訳	国庫支出金	174,743	県支出金	0	地方債	29,100	その他特財	136	一般財源	20,408

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	30.0%	30.0%	0.0%
18) 文化財の保護			

平成28年度つくば市行政経営懇談会 評価結果		
総合評価	B	施策の成果が一部確認でき、今後更に推進させるべきである。
提言	文化財に関しては今後、活用を考えていく必要がある。また、合併前つくられた資料館があるが、博物館を整備していくことも念頭に置き、文化面でも高い評価を得られるよう事業を推進されたい。	

取組概要	<p>開発に伴う試掘・確認調査や巨樹・古木等の悉皆調査を行い、小田城跡・金田官衙遺跡の両国指定史跡において保存用地の買収事業も実施。また平成28年度に完成開園した小田城跡歴史ひろば等の文化財の活用を図り市民の関心を高めるため、各種講座や催事を開催するとともに教員向け文化財研修を共催し、学校向けパンフレットも刊行した。</p> <p>合併前の資料館や新設博物館については、平成29年度から準備を始め、同30年度に策定予定の『文化財保存活用計画』の中で検討している。</p>
成果	<p>開発に伴う埋蔵文化財調査件数は、毎年31～36件を調査して円滑な開発事業の進行に努め、巨樹・古木等の詳細調査件数は目標50～75件に対し、毎年81～100件を調査し多量の資料を蓄積。史跡の用地買収は3年間で史跡金田官衙遺跡17,399㎡、史跡小田城跡2,870㎡を公有化して保存を進めている。復元整備した小田城・平沢官衙の歴史ひろばでは、毎年7万名近くの来場者、5,000名前後の催事参加者があり、学習施設や観光施設としても利用されている。また、学校への説明・講座件数は目標25件に対し、毎年27～34件と小・中学校での文化財展示施設の利用が浸透してきている。</p>
今後の課題	<p>開発に伴う埋蔵文化財調査件数は月3件程と非常に多く、効率良く対応し続ける必要があるとともに調査可能な専門職員の増員が不可欠である。史跡などの公有地が年々増加して草刈りなどの維持管理費が増大するとともに、復元整備をした平沢官衙遺跡の大規模な修繕なども必要となってきている。また、文化財の活用面で教育への有効活用が不可欠であるが、小・中学校での見学対応や出前事業の増加により職員への負担も多くなってきている。</p>
改善目標	<p>基本的には、文化財に関する施策を体系的に位置付けて今後の方針を定める『つくば市文化財保存活用計画』を平成30年度に策定し、計画的な修復も含めた各種文化財全体の保存・活用や文化財展示施設の維持管理について新たな展開を図る。また、専門職員を複数名採用し組織を強化する一方で、NPOやボランティアとの協業もさらに推進していく。</p>

自己評価（主管部署評価）	
自己評価記述	<p>復元整備が完了した小田城跡歴史ひろばや平沢官衙遺跡歴史ひろばは、史跡活用催事等を実施することで、歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育むとともに、観光やシティプロモーション等の活性化にも寄与している。また、小中学校への出前講座や展示施設見学説明等を実施し、子供たちに郷土への関心や愛着を持つ機会を増やしている。今後も継続して、史跡保存・活用事業や子供たちを含む市民への歴史や文化財に触れる機会等を推進する必要がある。</p>